

「わかろうとして聞く」「伝わるように話す」生徒の育成

笠原中学校 研究推進委員長 片山竜美

1 授業改善の視点

本校生徒の授業における意見交流、「学び合い」の実態として以下の2点があった。

- ・発表者は、大きな声で話せない。
- ・聞く側は、間話の内容を理解せずに聞き流しがちである。

学び合う授業といいつつも、意見の交流による学習内容の深まりがなかなか見られなかった。そこで、次の2つの取り組みを行った。

2 具体的な実践

(1) 話し方名人、聞き方名人ステップ表の作成

ほとんどの生徒が卒業してきた笠原小学校では、「聞き方名人」「話し方名人」と称して、話し方がレベルアップできるよう、段階を踏んだステップ表が全教室に掲示してあった。その内容を踏襲して、中学生向けに改良したものを作成し、これを全教室に掲示した。

<聞き方名人>

- 6 疑問点や新たな考えがもてるように
- 5 自分の考えと比べて
- 4 認め、反応しながら(うなずく・拍手)
- 3 最後までしっかりと
- 2 話す人や提示される資料をみて
- 1 作業をやめて集中して

<話し方名人>

- 6 順序立てて、筋道立てて説得力の話し方で
- 5 仲間の考えとつなげたり、比べたり、まとめたりして
- 4 最後まではっきりと
- 3 仲間に聞こえる声の大きさで
- 2 仲間の方を見て
- 1 ひじを伸ばし、返事は「はい」と気持ちよく

このステップ表を使い、よりよい聞く姿勢、よりよい話す姿勢の具体的なイメージを生徒に持たせた。

そしてこのステップ表に合わせて、全教師が徹して指導していくことを共通理解した。その際、目指す姿が教師にも、生徒にもわかりやすいように目指す聞く姿勢は「わかろうとして聞く」、目指す話す姿勢は「伝わるように話す」とした。

(2) 学習委員会による取り組み

本校では、生徒の基本的学習習慣を身につけさせるために「授業評価5A活動」を行っている。身につけさせたい学習習慣を「5」項目定め、それをクラスの生徒全員が達成できたら、「1点」となり、5項目すべて達成できれば「5点」となる。

そして、その日の授業のめあてを教科リーダーと教科担任が考えて示し、その達成度を「A・B・C」の3段階で評価した。

この「授業評価5A活動」の推進を学習委員会の活動の大きな柱として位置づけた。

<授業評価5A活動 後期評価基準>

- ① 2分前活動
用具の準備と静かに全員が着席している
- ② あいさつ
1つ1つの動作にメリハリを挨拶
- ③ 聞く姿勢
認め、反応しながらわかろうとして聞く
- ④ 挙手発言
学級の2/3が挙手できる
- ⑤ 話す姿勢
最後まで仲間に伝わるように話す

3 実践を振り返って考えられること

教師と生徒の両面からの取り組みによって、明らかに発言する生徒の声は大きくなり、間話を聞こうと必死で耳を傾けようとする生徒が増えてきた。さらに、少しずつではあるが、質問したり、「もう一度言ってください」と反応したりする姿が出始めてきた。

授業への集中度が高まり、授業の内容が理解できることは、学力の向上につながってきている。

本年度は、段階を踏んで指導にあたってきたが、来年度は、最初から安定してレベル4以上が保てるように指導をし、夏休み以降には、どのクラスでもレベル5・6ができるように取り組んでいきたい。